令和6年度　学校評価表

学校教育目標	志を持ち未来を拓く子どもの育成　「自ら学ぶ」
a　ミッション	主体性・協働性を育む小中連携教育を通した探究的な学習の推進
a　ビジョン	○基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校 ○学ぶ力と遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校 ○郷土への郷土愛を高める学校 ○地域と保護者が共に育て支える学校－土曲小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する－

【取組評価】　A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

評価計画					自己評価									改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	2月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
１２４年の歴史と伝統を大切に、よりよいものを求め続け、新たな学校へつなげる。	自ら学ぶ子	基礎・基本の定着と４つの資質・能力「主体性」「協働性」「つながる知識」「試行錯誤力」の向上	○モジュール授業の工夫 ○個に応じた指導の工夫 ○読書活動の充実 ○探究的な学習の推進 ○教科担任制の導入による学習指導の充実 ★話し合い活動の充実	・単元テストの通過率 国語・算数・理科・社会 ９０点以上の児童の割合	80	80.3		100	A	・4月は88.2%、5月は74.4%、6月は80.7%、7月77.94%で、全体では80.3%で、目標値を達成することができた。教科担任ブロック会議で出た課題を学校全体の研修に広げ、学校全体で系統的、継続的に授業改善に努めてきた成果と考える。しかし、5月、7月と目標達成していない月もあり、1時間の授業の中で、十分な問題数を解けるように授業改善していく必要がある。	○			・十分な成果である。日常的な習慣づけで集中して取り組めるように。 ・未好きな児童が多いため、問題を早く読解し、時間内に終わらせる力がついている。 ・組織的に取り組んでおられるのが成果として上がってきているのが分かる。 ・先生方に教科担任制導入によって余裕が出ると、学力や児童の心にとってもよいことになる。 ・継続して学力向上に努めていただいているようで安心した。	・算数科においては、単元末の復習で、どの学年も問題数を多く解かせる。そのために、教科担任制を利用して、空き時間のある教員や管理職が一緒に授業に入る。 ・定期的に授業参観を行い、授業で大切にしていこと各共通認識し、授業の質を高める。 ・話し合いのレベルを設定し、自分達の話し合いを振り返ることで、考えを深める力を付ける。 ・教科担任ブロック会議で話し合ったことを学校全体に広げ、系統的・継続的に授業改善に努める。
				・全国学力・学習状況調査の正答率 国語・算数＋10	75	76.2		102	A	・全国学力・学習状況調査の正答率＋10の達成者は、国語は81%、算数は71.4%、全体では76.2%であった。全国の平均点に比べると本校の平均点は国語科では、＋15.3、算数科では＋18.6であった。					・テスト分析を行い、課題を見付け、教職員全体で課題を把握し、課題を克服するための授業改善について話し合い、今後の授業に生かす。 ・AIドリルを利用し、個別の課題に応じた学習に取り組ませる。 ・課題のある問題についてモジュール教材を開発し、繰り返し問題に取り組ませる。 ・中学校区で小学校、中学校の課題を共有し、小学校1年生から中学校3年生までどのような授業が必要かを話し合い、中学校区の全教職員が共通認識の基、授業改善に努め、系統的に指導していく。
				・尾道市学力定着実態調査の正答率 １、2年（国語・算数）　目標値＋８ ３年（国語・算数）　目標値＋10 ４年（国語・算数）　目標値＋10 ５年（国語・算数）　目標値＋10 総合学力テストの正答率（1月） ６年（国語・算数）　目標値＋10	80									
				・推薦指定図書の読破率 低学年２０冊 中学年１６冊 高学年　8冊 ※達成目標　１学期（低7　中4　高3） ２学期（低14　中12　高5） ３学期（低20　中16　高8） ・学期別の読書目標ページ 低学年：１２冊（毎月） ３年生以上：300ページ（毎月） ※達成目標 １年間で3000ページ達成	80	推薦84 目標86.8		推薦105 目標109	A	・１学期の推薦指定図書の読破率は84.03%、読書目標ページの達成率は４、５月87.5%、６月90.5%、７月82.3%、全体では86.8%だった。推薦指定図書の読破率、読書目標ページの達成率とも目標を達成できた。昨年度に続き、課題図書週間を位置づけたり、学校図書館司書に本の紹介をしてもらったり、担任から読書への声かけや価値付けを定期的に行ったりすることで、目標値を達成することができた。また、学期ごとの目標達成者の表彰も児童への意欲付けとなった。	○			・十分な成果と思う。日常的な習慣づけでストレス無く本に親しめる。いろいろな種類の本を読んで欲しい。 ・読書は学びの基礎基本なので、継続してほしい。 ・本に触れる機会を多くすることで、読書習慣が定着していることがよく分かった。 ・本を読むことが楽しいと思えることが大切だと思う。たくさんの工夫がすばらしいと感じた。 ・司書の力のも使い、よい取組になっている。 ・校長先生と表彰された児童が記念撮影をすることは、高いモチベーションとなる。 ・活字離れが叫ばれている中、よい取組だと思う。この時期に習慣をつけることで、今後のいろいろな本との出会いを生み出すきっかけ作りになろうかと思うので、習慣となるように指導をお願いしたい。	・学期に1回、学校図書館司書に本の紹介をしてもらい、読書の幅を広げる。 ・図書委員会を使って、本の啓発活動を行う。（読書祭り、読み聞かせ、読書クイズ等） ・目標達成者には、表彰を行い、意欲付けを行う。
	思いやりのある子	共感的人間関係の育成	【継続方策】 ○主体的な挨拶の励行 （友達・先生・他学年・地域の人に進んであいさつをする） ○縦割り班活動・児童会行事等の集会活動の充実（異学年でかかわり、他者を思いやる心を育てる）	・習慣化できた児童の肯定的割合 （児童アンケート４段階の３以上）	90	98.2		109	A	・4月100%、5月97.06%、6月97.41%、7月98.32%であった。毎月１３日の「あいさつの日」の呼びかけを継続して行うとともに、毎週金曜日のイングリッシュデーを有効に活用し、英語であのあいさつも意識付けをすることができた。英語であのあいさつを意識すると笑顔で明るい声であいさつをする児童が多くなった。	○			・十分な成果である。日常的な習慣づけで括抗なく自然にできるようになる。 ・あいさつは家庭が基本なので、家族内でしっかりやってほしい。 ・イングリッシュデーのことを知らなかったが、英語であいさつされることがあり、このおかげだと思った。 ・私自身、あいさつは基本と考えているので、継続できるように引き続きのご指導をお願いしたい。 ・地域であいさつをする印象はあまりない、複数いるときや知り合いには できるが、１人のときや来客等に気遣ってしまいます。	・毎月１３日のあいさつの日を継続して行う。 ・イングリッシュデーでは、朝の会や帰りの会であのあいさつの話形を示し、多様なあいさつの方法を指導していく。
				・他学年とも、協力して、楽しく活動することができた児童の割合（縦割り集会後の児童アンケート）	90	93.9		104	A	・毎月１回の縦割り朝会は、行事等の関係で実施できない月もあったが、縦割り集会後のアンケートでは、肯定的な評価が93.9%と高く、縦割り班で協力する姿が多く見られた。新しい縦割り班になっても協力する風土が作られている。その結果、毎月の排除アンケートでも主体的・協働的に排除をしている児童の割合が99%と高い数値が見られた。	○			・縦割り活動は本校の伝統なので、学校文化として定着し、自然にできるようになって欲しい。 ・6年生が１年生を気にかけ世話をする責任感ややさしさが感じられた。 ・児童会が活躍していることをよく耳にする。 ・「異学年交流が土曲小学校」という時代を通じてできたものとすれば、継続に感謝する。	・児童会執行委員会や各委員会を中心に縦割り朝会を企画し、異学年交流の場を増やしていく。また、活動後には児童の頑張りを評価し、フィードバックすることで次への活動につなげていく。
				・アセス「生活満足度」５０以上	80	79.0		98.8	B	・７月に実施したアセスでは、生活満足度50以上が学校全体として79%だった。学年で見ると、1年生100%、2年生100%、3年生87.5%、4年生57.8%、5年生70%、6年1組70%、6年2組95%、さくら学級80%だった。高学年になるにつれ生活満足度が下がる傾向があり、特に4年生の生活満足度に課題が見られる。	○			・家庭生活も考えれるので、保護者との連携が重要である。 ・4年生が低いことが気になる。対策の必要がある。 ・年齢的に難しいこともあると思うが、毎日の生活の充実感が、幸福感につながると思う。 ・高学年である6－2が95%という高い数字がすばらしい。 ・児童だけでなく教職員も他学年と交流があるのはすばらしい。新しい流れを継続していただきたい。	・クラスの実態、個人の課題をアセスの結果から分析し、学級経営に生かしていく。担任だけではなく、教職員全体で交流を行うことで、気になる児童へ多くの教員が関われるようにする。
	根気強くたくましいりぬく子	体つくり	○児童の主体性を引き出す体育の授業づくり	「体育・運動」に関わるアンケート　肯定的評価 （児童アンケート５段階） １　２　３　４　５ ①体を動かすことが好きか　90% ②体育の授業は好きか　90%	①90 ②90	①93.9 ②95.9		①104 ②106	A	・７月に実施した体育・運動に関するアンケートでは、体を動かすことが好きかという質問に対して肯定的評価93.9%、体育の授業が好きかという質問に対して肯定的評価95.9%であった。しかし、5年生の体力テストの結果で「投げる」と「柔軟」に課題があり、その他の学年でも体力や走ることに関する課題が多く見られた。	○			・投げることの課題はよく耳にする。多分、土曲のみの問題ではなくて、児童は日常で投げて遊ぶような機会も少ないことが原因かもしれない。アンケートをとってはどうか。母が継続的に取り組む必要がある。 ・バス通学の児童の体力不足が気になる。 ・全体的に体力の低下を感じる。小学生の間に体を作ることは、とても重要だと思うので、積極的に体力作りの取組をしたほうがよいと思う。 ・通学時に歩くことも少ないので、体力不足が気になる。 ・水泳の授業ができにくいことを聞いた。いろいろ変化がおきているが、基本に忠実に対応していくほかない。	・児童の運動に対する肯定的な結果を生かすために、休憩時間の過ごし方や、体育科の準備体操などを工夫し、児童が楽しみながら、運動能力・体力向上を図る。 ・大縄跳び、マラソン朝会、体育朝会などを実施することで、目標に向かって継続的に運動に取り組む機会を増やし、日常的に運動に親しむことができるようにする。
			○「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底 ★栄養教諭と連携した食育の推進	早寝・早起き・朝ごはんのそれぞれについて習慣化できた児童の割合 （児童アンケート５段階） １　２　３　４　５ ↑ １週間のうち５日できた児童	早寝80% 早起き90% 朝ごはん90%	早寝86.2% 早起き92.9% 朝ごはん95.8%		早寝107 早起き103 朝ごはん106	A	・昨年度に引き続き、がんばりカードを活用し、自分で目標設定をさせたことで、設定目標に向けて行動することができた。昨年度末から早寝は、約5%上がり、早寝も約3%上がっていた。4月に行った生活がんばりカードやプールカードなどの取り組みの成果と考えられる。	○			・こちらは保護者との連携が最も重要である。 ・朝、顔分をたくさんとってくる児童もいるようなので、栄養の指導をしっかり家庭とも共有できたらと思う。 ・早寝、早起き、朝ご飯頑張の成果は大きいと思う。みなと小学校でも続けてほしい。 ・あいさつ同様に基本となる事柄ですので、継続的にご指導をお願いしたい。	・２学期は、栄養教諭と連携しながら、朝ごはんを毎朝食べる児童を100%に近づけるようにしていく。 ・保健だよりの読み聞かせ、食育指導、保健指導を通して、自分から進んで健康的な生活を送ろうとする態度を育てていく。
	地域に共に育てる保護者が	コミュニティ・スクールの実践	【継続方策】 ○尾道への郷土愛を高める教育を行う　ために、地域人材・素材を計画的に教育課程に位置づけて実践する。	「ゲストティーチャーの活用」に関する児童アンケートの肯定的評価（３～６年生） 児童の割合９０%以上	90	100.0		111	A	・地域での学習は７回で、ゲストティーチャーの活用は13回で合計20回だった。昨年度に比べ、地域に出る回数、ゲストティーチャーの活用は減っている。しかし、依然として各学年とも積極的に地域に出向き、意図的、計画的にゲストティーチャーを活用し、単元計画を工夫している。 ・ゲストティーチャーの活用に関する児童アンケートでは、肯定的評価は100%であった。ゲストティーチャーによって、新たなことが分かった、もっといろいろなことが知りたいと思った、次の課題が見つかった等、学びを深めることができた。	○			・地域の人材は、存分に活用されるとよいと思うし、活用されるから植えいと思う。指導計画を立てるなかで、この内容はゲストティーチャーにお願いする…といったような流れが重要である。 ・児童の積極性と意欲をとても感じる活動だと思う。たくさんの大人と触れる機会は、学びをより深める。 ・地域にとっても活力になっていてありがたい。 ・地域学習も土曲小学校の伝統だと思う。残りわずかかもしれないが、積極的に実施していただきたい。	・総合的な学習の時間では、単元のゴールに向けて知りたいことを聞くだけでなく、活動の方向性や内容についてアドバイスをもらう場面でもゲストティーチャーに来ていただく。
				保護者評価４段階３以上の割合 （保護者アンケート） ・運動会 ・学習発表会	95	100.0		105	A	・運動会の保護者アンケートの結果は、肯定的評価100%であった。記述内容から、子供達が元気に意欲的に取り組んでいる姿、それを指導する職員の姿に対して、多くのありがたい言葉をいただいた。決められた演技時間の中で、子供達とどんなパフォーマンスをするかを考えたり、子供達を中心に練習をしたりすることで、充実した運動会となった。	○			・保護者の皆さんは土曲の取り組みに満足しておられると思う。 ・すべての発表が、すばらしいものだった。 ・高学年は斜に構えたりすることなく一生懸命取り組み、低学年は集中してやりきる。土曲小の児童のよさがうまったものだった。 ・短い練習期間で集中して楽しみながら取り組んでいることを感じた。 ・１００%の肯定的評価、すばらしいと思う。先生方の児童への二指導、保護者への配慮をありがたく感じている。 ・今後予定されている学習発表会への取組は大変だろうが、児童主体で進んでいることがすばらしい。	・学習発表会でもすべての保護者の皆様に満足いただける内容にしていく。そのために、各教科、総合的な学習の時間の学習内容を充実させ、その成果が発揮できる内容にしていく。また、子供達が自分達で選んだり、決めたりする場面を設定し、主体的に取り組めるようにしていく。
			【継続方策】 ○働き方改革の推進	①平均時間外勤務の減少 ※月平均３０分減少（昨年度同月比） ②日々の業務の中で充実感を得られている肯定的割合（働き方改革アンケート）	100 90	751 100		2503 111	A	①について ・月平均12時間31分（751分）の減少となった。要因として、教科担任制の充実により、負担の大きい高学年に空き時間を作ることができたこと、会議の精選や授業カットによる事務作業時間の確保、退校時刻の設定等による。職員の意識が変わってきた。 ②について ・アンケート結果は、肯定的評価100%であった。全項目100%であったことから、職員の働きやすい職場づくりができていると考える。	○			・教職員の皆様が心身ともに健康であってこその学校教育であるので、皆さんで教育目標を共有し、皆さん一人一人がそれぞれの持ち味を活かして自分の業務に取り組まれていて欲しい。まずはやCLASPを共有するということが、経験豊富なベテランに多くがあり、やはりいいから、色やれはいい！「のの編集」になると業務が簡単にしていくのでまず効果である。 ・風通しのよい職員室で、全児童を全教職員で見ていくという取組がすばらしい。先生方の表情が明るいと感じているので、働き方改革が進んでいると思う。 ・働き方改革に縛られることなく、先生方の意思を中心に行っていただきたい。 ・限られた時間の中で、児童のフォロー、授業準備、本当に大変だと思う。改善傾向にあることでさすがらしいと思う。 ・毎日忙しく大変だと思うが、効率を上げて対応できることについては、部内全に導入検討の上、可能な限りの時短改革ができることを計画している。必要なことを整理することで、かなり時間的余裕を生まれ、児童に対する時間も増えていることに期待する。	・大きな生徒指導事案がないこと、働き方改革への職員の理解と意識があってこの結果を生み出しているので、引き続き、現状の取組を続けていく。